

2024 年秋に沖曳網で採捕されたヒウオと早期エリ漁獲アユの

ふ化日組成および成長履歴の比較 (2024 年)

谷口 皆人

1. 目的

早期エリ漁況を早期かつ高精度に予測する手法が求められているため、11月に漁業者が行う沖曳網漁業で混獲されたアユ稚魚（以下ヒウオ）を用いて12月エリ漁獲アユのふ化日組成および成長を予測できるか検証した。

2. 方法

2024年11月5日に沖島漁業協同組合の漁業者の沖曳網漁業で混獲されたヒウオおよび12月2日に北湖沿岸の6漁協のエリで漁獲されたアユの一部について、体長測定後に耳石を摘出した。耳石解析ではラトックシステムエンジニアリング社製の耳石日輪解析システムを用いて日齢査定を行うとともに、測定した日周輪間隔と耳石径から Biological intercept 法により体長を逆算推定し、日毎の成長速度を算出した。比較に用いた過去の成

長データは本場に保存されていたものを使用した。

3. 結果

2024年11月沖曳網混獲ヒウオと12月エリ漁獲ヒウオのふ化日組成を比較すると、久米ほか(2021)、佐々木(2023)と同様、両者のふ化日組成は類似していた(図1)。2024年の12月エリ漁獲ヒウオのふ化日組成は、例年と比べて遅生まれの割合が高い特異的な年であった。11月沖曳網混獲ヒウオのふ化日組成でもその傾向を捉えていた。また、日毎の成長速度についても類似していた(図2)。以上より、11月時点で早期エリ漁獲ヒウオのふ化日組成および成長を予測できる可能性が示された。今後は既存の手法と組み合わせてより高精度な漁況予測を行うほか、データを蓄積し、本手法の予測精度を検証することが望まれる。

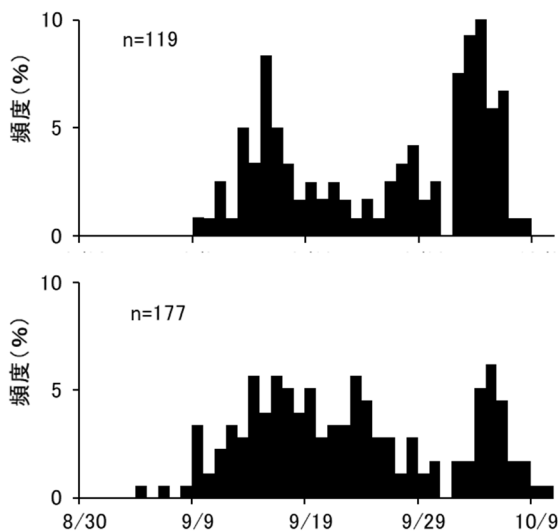


図1 採捕されたヒウオのふ化日組成 (上：11月沖曳網漁業、下：12月エリ)

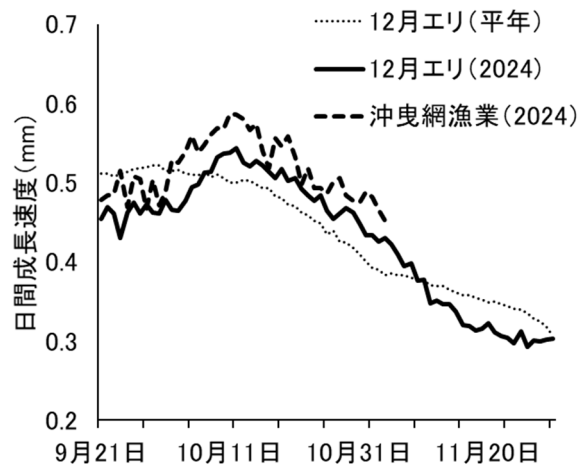


図2 採捕されたヒウオの成長速度 ※平年は過去10年の平均値

引用文献

- 1) 久米弘人ほか. 秋に沖曳網で採捕された琵琶湖産アユ仔稚魚の体長とふ化日. 滋賀県水産試験場研報 57号
- 2) 佐々木賀治. 2023年秋に沖曳網で採捕されたヒウオと早期エリ漁獲アユのふ化日組成および成長履歴の比較. 令和4年度滋賀県水産試験場事業報告